

<注>

- (1) 科学技術庁資源局「公共事業予算制度の研究」(1) 昭・31
- (2) 参考文献
W.F. Willoughby, The Problem of a National Budget, 1918
F.A. Cleveland A.E. Buck, The Budget and Responsible Government, 1920
- (3) 予算過程論的アプローチといっても、そのあとでのべるように、予算過程の定義が必ずしも明確にされていない今日、誤解を招きやすい用語であるが、制度論的予算論や行政管理論的予算論と特に対置する意味で用いた。その意義は本文の説明によって了解されたい。
- (4) F.C. Mosher, *ibid.*, pp. 12 - 17
- (5) J. Burkhead, *ibid.*, p. 49
- (6) Burkhead, *ibid.*, p. 56
- (7) Aaron Wildavsky, The Politics of the Budgetary Process, 1964, p. 4
- (8) *ibid.*, op. cit., p. 2
- (9) A. Wildavsky, Political Implications of Budgetary Reform, in Francis E. Rourke, Bureaucratic Power in National Politics, 1956, p. 144
- (10) A. Wildavsky, Politics, p. 179
- (11) *ibid.*, op. cit., p. 136
- (12) この実態調査結果をまとめたものがさきに引用した“The Politics of the Budgetary Process”である。
- (13) Wildavsky Modelについてはつぎの論文にくわしい。
Otto A. Davis, M.A.H. Dempster, and A. Wildavsky, A Theory of the Budgetary Process, The American Political Science Review, Vol. LX, Sept. 1966. №3

〔 所 報 〕

〔 I 〕 第 8 回定例所員総会について

第8回定例所員総会は、昭和42年1月24日(火)午後2時より神田校舎第2会議室で開かれた。出席者27名、委任状提出者27名。(この総会は本来昨年11月に開かれるべきであったが、今回は所長改選その他の事情により延期されていたものである。)

同総会の議事次第および決定事項は以下のとおりである。

(1) 開会の辞——山田盛太郎所長

(2) 新所員紹介——経済学部兼任講師の石崎唯雄、斎藤博、鍋島力也の三氏が、運営委員会の議をへて、所長より新たに所員に委嘱された。

(3) 事務局報告——吉沢芳樹事務局長より、つぎの諸点にわたって報告がおこなわれた。

①特定研究「日本の近代化」の研究進行状況。②月例研究会の開催経過。③旧「日本資本主義構造研究会」の成果取りまとめ状況——執筆メンバー全員による研究報告終了、1月末脱稿、5月岩波書店より刊行予定。④「年報」第2号の計画——編集委員代表、森田桐郎所員。5月刊行予定。出版社を定め、発売形式をとる。⑤42年度研究所予算案を学長へ提出したこと。⑥ゼロックスの借入金を11月20日で打切ったこと。

(4) 昭和41年度研究助成金の交付決定。

〔A〕 個人研究

① 「リカードウ研究」吉沢芳樹所員。5万円（但し41年度交付分は4万円。残額は明年度交付）。

② 「十月社会主義革命と社会主義憲法の形式」隅野隆徳所員。5万円（同上）。

〔B〕 グループ研究

「明治維新の比較史的研究」研究代表者—加藤幸三郎所員、ほか4名。2万円。

(5) 所長改選

山田所長は本年3月末日で任期満了となるので、規程第6条にもとづき、昭和42年4月1日よりの次期所長の選挙をおこなった。この場合、選挙方式は無記名投票とし、出席所員の過半数の得票によって決定すること（委任状はそれに従う）——第8条第4項による——、過半数の得票者がなかった場合は上位2名による決選投票をおこなうことが、審議のうえ決定された。

第1次投票では過半数をえた者がなかったので、上位2名について第2次投票をおこなった結果、小林義雄所員が次期所長に決定した。任期は2年間。

(6) 事務局長任期の決定による規程修正。

従来の規程には事務局長任期の規定がなかったので、所長と同じく2年と定め、規程の修正をしたうえで、改選をおこなうことが決定された。規程への追加規定はつぎのとおり。

第十一条の3「事務局長の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。」

なお、現事務局長の任期は、経過措置として本年3月末までとすることになった。

(7) 事務局長の改選

事務局長については、実務の継続的遂行が必要なので、運営委員会があらかじめ事務局の意向を察知して候補者を定め、その候補者について所員総会で信任投票をおこなうことによって決定する方式が全員の賛成をえた。ついで所長より、昭和42年4月1日よりの次期事務局長候補として玉垣良典所員が推薦され、信任投票の結果、信任票21票、白票11で、玉垣氏に決定した。

〔Ⅱ〕 特定研究「日本の近代化」の第三回合宿研究会が1月28(土)・29(日)の両日、神田三崎町森田館で開かれた。報告は次の三つ。

- ① 加藤幸三郎氏「明治後期における日本綿糸紡績業よりみた朝鮮市場」
- ② 栗木 安延氏「重化学工業化と労働組合の再編」
- ③ 吉沢 芳樹氏「日本資本主義確立期および帝国主義成立期における関税政策論争」

研究会はメンバー20名、ほか2名の参加をえて、活潑な討論が展開された。その詳細は追って別号に掲載する予定。

その際、「特定研究」の推進ならびに事務処理のため「幹事会」を設けることが事務局より提案され、承認された。選出された幹事名と主なる任務分担は、所長のほか、次のとおり。

吉沢芳樹氏(研究事務幹事代表)、福島新吾氏(資料)、玉垣良典氏、加藤幸三郎氏(渉外・実態調査)、隅野隆徳氏(研究報編集・書記)。なお、このほか、会計事務については殿村晋一氏の協力を得ている。

〔Ⅲ〕 41年度の第2回月例研究会が2月14日(火)午後2～7時に開かれた。報告は安藤彦太郎氏(早稲田大学教授)の「中国『文化大革命』の課題と実態について」。現在多くの注目を集めて進行しているこの問題について、報告を基に、活潑な討論が行なわれた。出席者は所員ほか16名。なお、報告および討論はテープに収められているので、希望者は事務局まで申出られたい。

『月報』第37号 福島新吾氏「明治期における植民主義の形成」の正誤表

| (頁) | (行) | (誤) | (正) |
|-----|--------|---------|-----------|
| 2 | 下から2行目 | 遂に | 逆に |
| 3～4 | 上から1 " | 元年1月12日 | 元年・14年12月 |
| 9 | " 1 " | 右から3 | 右から5 |

| (頁) | (行) | (誤) | (正) | | | | | | | | | | | | |
|-----|----------|--|--|----------|---|--|---------|--|---|--|---------|--|----|---------|---|
| 9 | 上から5行目 | 星 _じ るし | 米 _め じるし | | | | | | | | | | | | |
| 9 | " 6 " | てある | ている | | | | | | | | | | | | |
| 9 | " 12 " | 次の頁 | 下の方 | | | | | | | | | | | | |
| 9 | " 13 " | の欄の | の欄に | | | | | | | | | | | | |
| 9 | " 17 " | なりますん | なりません | | | | | | | | | | | | |
| 9 | " 17 " | その下 | (13) 表 | | | | | | | | | | | | |
| 9 | " 18 " | ハワイと | ハワイに | | | | | | | | | | | | |
| 11 | " 4~5行目 | <table border="1"><tr><td>満洲</td><td>大4.6.30.</td><td>②</td></tr><tr><td></td><td>98, 205</td><td></td></tr></table> | 満洲 | 大4.6.30. | ② | | 98, 205 | | <table border="1"><tr><td></td><td>大4.6.30</td><td></td></tr><tr><td>満洲</td><td>98, 205</td><td>②</td></tr></table> | | 大4.6.30 | | 満洲 | 98, 205 | ② |
| 満洲 | 大4.6.30. | ② | | | | | | | | | | | | | |
| | 98, 205 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大4.6.30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 満洲 | 98, 205 | ② | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 5行目 | 植 _ち 民 | 殖 _ち 民 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 11 " | 己 _こ 代治 | 巳 _こ 代治 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 12 " | 小林 | 小村 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 13 " | 陸 _{りく} 曷 _く 南 | 陸 _{りく} 曷 _く 南 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 14 " | 徳 _{とく} 宮 | 徳 _{とく} 富 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | 下から8行目 | 副 _ふ 本 | 福 _ふ 本 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 6 " | 明治 _{めい} 34年 | 明治 _{めい} 24年 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 1 " | 植 _ち 民協 _{けい} 会 | 殖 _ち 民協 _{けい} 会 | | | | | | | | | | | | |
| 18 | " 1 " | 矢 _や 内 _{うち} 厚 _{こう} | 矢 _や 内 _{うち} 原 _{げん} | | | | | | | | | | | | |
| 19 | 上から2 " | 垣 _{かき} | 恒 _{とこ} | | | | | | | | | | | | |
| 20 | " 7 " | 畢 _{へい} 意 _い 我 _が ら _ら が _が 未 _み だ | 畢 _{へい} 意 _い 我 _が ら _ら が _が 未 _み だ | | | | | | | | | | | | |
| 20 | 下から11 " | 定 _{てい} 住 _{じゅう} 意 _い 見 _{けん} | 移 _い 民 _{めい} | | | | | | | | | | | | |
| 20 | " 7 " | 未 _み だ | 未 _み だ | | | | | | | | | | | | |
| 20 | " 4 " | 民 _{めい} 地 _ち 協 _{けい} 会 | 民 _{めい} 協 _{けい} 会 | | | | | | | | | | | | |
| 21 | 上から8 " | 週 _{しゅう} 間 _{かん} 誌 _し | 週 _{しゅう} 刊 _{かん} 誌 _し | | | | | | | | | | | | |
| 21 | " 9 " | 値 _ち | 質 _{しつ} | | | | | | | | | | | | |
| 21 | 下から7 " | 折 _{せつ} 艇 _{てい} | 折 _{せつ} 艇 _{てい} | | | | | | | | | | | | |
| 21 | " 7 " | 水 _{すい} 口 _{こう} | 水 _{すい} 国 _{こく} | | | | | | | | | | | | |
| 21 | " 6 " | 未 _み だ | 未 _み だ | | | | | | | | | | | | |
| 22 | 上から2 " | ラ _ら ス _す リ _り ー | ウ _う ス _す リ _り ー | | | | | | | | | | | | |

| (頁) | (行) | (誤) | (正) |
|-----|----------|------|-------|
| 22 | 上から 2 行目 | 本方論 | 東方論 |
| 22 | " 6 " | 急端 | 急湍 |
| 23 | " 1 " | 74才 | 73才 |
| 23 | " 9 " | 本国より | 「本国より |
| 24 | " 7 " | 昭昭 | 昭和 |
| 25 | " 9 " | 報書 | 報告書 |

『月報』№40 小島昭氏「予算理論の貧困」の正誤表

| (頁) | (行) | (誤) | (正) |
|-----|------|-----------|----------------|
| 1 | 3 行目 | 農業諸団体の | 農業諸団体や |
| 1 | 5 " | 国内産業にはこ | 国内産業たはこ |
| 2 | 3 " | 政治部内 | 政府部内 |
| 2 | 14 " | 調停工作に首相…… | 調停工作に委ねられ、首相…… |

〔資料ノート〕

「近代化」購入図書資料一覧 (№2)

- ① 近藤鈞一編「万才騷擾事情」(三一運動)(1)〜(3) 3冊 昭和39年 財団法人友邦協会
- ② 坪江汕二著 改訂増補「朝鮮民族独立運動秘史」 昭和41年 嶺南堂書店
- ③ 梶村秀樹・宮田節子・渡部学著「朝鮮近代史の手引」 1966年 日本朝鮮研究所
- ④ 朝鮮総督府警務局「最近に於ける朝鮮治安状況」 昭和8年・13年 昭和41年 嶺南堂書店
- ⑤ 李箕永著・李丞玉訳「流浪の追憶」 1965年 朝鮮青年社
- ⑥ 安田泰次郎著「北海道移民政策史」 昭和16年 生活社
- ⑦ 松田寿男・森鹿三編「アジア歴史地図」 1966年 平凡社

< 編 集 後 記 >

今回は、小島昭氏の前号論文の続きと、昨年12月に「近代化」研究会で行なわれた加藤佑治氏の研究報告をいただきました。

学年末試験、追試験、入学試験、そして採点と、教育者としては当然経なければならない過程とはいえ、それがあまりに大量になると、教育という観点を忘れざるを得なくなるような、うっとうしいこのごろ、一方、春の季節の訪れももう間近かのようにです。春とともに、また研究活動の成果をこの「月報」に反映されるよう、お願いします。

前号以後の所員の研究業績は次のとおりです。

加藤幸三郎「三井の工業化（中上川彦次郎と益田孝）」『エコノミスト』 1967年1月31日号

（近代日本の争点34）

栗木安延「労働運動の右派勢力—全国民連とIFM・JCの実態と背景—」『経済』 1967年2月号

斉藤高志「ヨーダーの労務監査論」専修『経営学論集』第3（1967年2月）号

梅井義雄「日本綿業史上の三井物産と三菱商事—総合商社と企業者活動の事例研究として—」

同上

後藤玉夫「生産技術に関する函数解析的考察」同上

梅井義雄「三井物産会社をめぐる中上川彦次郎と益田孝」『政経研究』第3巻第3号

（加藤（佑）、宮下、隅野記）

東京都千代田区神田神保町3の8

専修大学社会科学研究所 電話 (265) 6211~20〔内線53〕

（発行者） 山 田 盛 太 郎